

2年 国語科学習指導案

授業者 大阪市立中津小学校 中林 圭奈子

- 1 日 時 令和7年11月11日(火) 第5校時(14:00~14:45)
2 学年・組 第2学年3組(在籍25名)
3 単元名 むかし話のおもしろさを見付け、しょうかいしよう
(いわさききょうこ「かさこじぞう」東京書籍2年下)

4 単元目標

- (1) 昔話などの読み聞かせを聞くなどして、昔話特有の言葉や表現に気付くことができる。
[知識及び技能] (3)ア
(2) 場面の様子を読み取り、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)エ
(3) 自分の体験と結び付けたり、他の昔話と比べて読んだりする中で感じたことや分かったことを伝え合うことができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)カ
(4) 言葉をもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

「学びに向かう力、人間性等」

5 単元間の関連と系統

前単元(1年2月)

本単元(2年11月)

次単元(3年11月)

学習材 「スイミー」 物語を読み、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、友だちと伝え合う。	学習材 「かさこじぞう」 昔話を読み、昔話特有の言葉や表現、登場人物や内容からおもしろさを見つけ、友だちと伝え合う。	学習材 「モチモチの木」 物語の登場人物について、地の文と会話文を手がかりに行動や気持ちを想像し、友だちと伝え合う。
--	--	--

6 単元で取り上げる言語活動

「読み広げた昔話の中からおもしろい所を見付け、「『おもしろさはっけんカード』を書こう」という言語活動を設定する。これは、第1学年「むかしばなしをたのしもう」の単元で紹介されている15の昔話を読み、その中から好きな作品や出版社を選び、感じたおもしろさを自分の言葉で表現し、級友と比べ合いながら新たなおもしろさを見付けるものである。この言語活動を行うためには、できごとや登場人物の行動を自分の体験と結び付けたり、他の昔話と比較したり、昔話特有の言葉や言い回しに注目したりすることが必要となる。したがって、本単元の目標にふさわしい言語活動であると考えた。

(関連: [思考力・判断力・表現力等] C(1)カ)

7 評価標準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 昔話などの読み聞かせを聞くなどして、昔話特有の言葉や表現に気付いている。 (3)ア	① 登場人物の行動や場面の様子から、登場人物の心情を具体的に想像している。(C(1)エ) ② 自分の体験と結び付けたり、他の昔	① 昔話のおもしろさを進んで見付け、見通しをもって学習に取り組み、見付けたおもしろさと選んだ理由を友だちと

	話と比べて読んだりする中で感じたことや分かったことを伝え合っている。(C (1) カ)	交流ながらまとめようとしている。
--	---	------------------

8 指導にあたって

【学習者観】

本学級の児童は、1年「むかしばなしをたのしもう」において、昔話の読み聞かせを聞くなど、たくさんの昔話に触れ、昔話の好きなところを紹介する活動を行った。

2年4月の物語文教材「風のゆうびんやさん」においては、「時」「場所」「人物」などの学習用語を確認し、内容の大体を捉えた。音読を通して、自分が理解したことを表現したり、登場人物の挿絵や会話文から人物の声を具体的に想像したりする経験をした。音読カードを使って、語のまとまり、声の大きさや姿勢を意識しながら、家庭でも毎日音読に取り組んだことで、次第に文章をすらすら読むことができるようになった。

6月の物語文教材「名前を見てちょうどい」においては、内容を事柄の順序に沿って整理する中で、場面について理解し、場面の展開に即して時間や場所、登場人物などの様子が変化しながら描かれていることに気付くことができた。また、人物の行動を表す「すまして」「あとずさり」「したなめずり」などの言葉を動作化することを通して、様子を具体的に想像しながら音読することができた。

9月の物語文教材「ニヤーゴ」では、場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像し、人物がしたことや言ったことから気持ちの変化を捉え、音読で表現したり、発表したりする学習を行った。登場人物の「食う一食われる」という関係性に注目しながら、「なぜこのような行動をとったのか」「もし自分だったらどうするか」を考え、子ねずみたちの行動によって、ねこの心情に変化が起こってくる様子を音読で表現することができた。

【単元観】

本単元のねらいは、昔話のできごとや登場人物のおもしろさ、昔話特有の言葉や表現のおもしろさなどを探ししながら読み、自分が見付けたとっておきのおもしろさを紹介できるようになることである。

本教材文「かさこじぞう」は、貧しい暮らしの中でも、互いを思いやり、心豊かに生きるじいさまとばあさまの姿を描いた物語である。時と場所によって場面が分けられ、じいさまの行動を中心に読むことで、展開を明確に捉えやすい。さらに、昔話特有の言葉や表現があり、語り口調も楽しみながら読めるなど、おもしろさ（心が動くところ）を見付けやすい。

第1場面では、貧乏で正月の餅の用意もできずにいたじいさまとばあさまが、二人で菅笠を作る。じいさまとばあさまの暮らしぶりやせっせと菅笠を編む様子から貧乏でもよいお正月を過ごそうと奮闘する二人の姿の健気さに心が動くことだろう。

第2場面では、じいさまが正月の買い物で大賑わいの市で笠を売ろうと声を張り上げる。よい正月を過ごすため、ばあさまのために笠を売ろうとするじいさまの優しさと一生懸命さを読み取ることでお話のおもしろさに気付くことができる。

第3場面では、笠を一つも売ることができなかつたじいさまが、片側だけ雪に埋もれた地蔵様に笠と自分のつぎはぎだらけの手ぬぐいをかぶせる。じいさまが地蔵様にしたことや言ったことからじいさまの優しさを読み取ることができる。また、地蔵様が登場するというおもしろさや、地蔵様の見た目や様子を想像することのおもしろさを味わうことができる。

第4場面では、じいさまが地蔵様を助けることができ、安心して家に帰る。ばあさまは、じいさまの行いに共感し、温かく迎える。じいさまとばあさまのやりとりから二人の優しさを読み取ることができる。また、もちつきのまねごとの様子から二人の心の豊かさや言葉のおもしろさにも気付くことができる。

第5場面では、二人の優しい行動によって地蔵様から贈り物を授かる。「じょいやさじょいやさ」「ずっさんずっさん」などの言葉や真夜中に何かが家に近づいてくるという出来事からおもしろさを感じ取ることができる。また、地蔵様がじいさまだけでなくばあさまも探しているところから、これまでの二人の行動と物語の結末とのつながりに気付き、そのおもしろさを味わうことができる。

このように本教材文は、昔話特有の「語り」に触れることができる作品であると共に、「よいことをしたら、よいことが起きる（因果応報）」という日本の昔話の典型であり、他の昔話を読み広げる活動に繋げやすく、我が国の伝統的な言語文化に親しむきっかけをつくるのに適した教材である。

【指導観】

第Ⅰ次では、まず、1年「むかしばなしをたのしもう」の挿絵を提示し、好きな昔話とその理由を交流する。次に、題名や扉絵からお話を想像することで、期待感をもてるようになる。その後、全文を通読し、初発の感想を書く。「好きなところ」「心に残ったところ」「なぜだろうと思ったところ」の3つの観点から選んで書き、児童の感想に基づいて学習計画を作成する。また、挿絵を基に出来事の順序を確かめることで物語の大体を捉えることができるようになる。そして、第Ⅲ次で『おもしろさはっけんカード』を書いて紹介し合うという言語活動を知らせる。そのために第Ⅰ学年「むかしばなしをたのしもう」の单元で紹介されている昔話を読み広げ、『むかし話のせかい、たんけんシート』に記録を書きためることを説明し、学習の見通しを持てるようになる。『むかし話のせかい、たんけんシート』には、「かさこじぞう」以外の昔話の題名と、いつ読んだか、どのようなところがおもしろかったかを書く欄を設けておく。教科書の言葉の力「むかし話のおもしろさを見つける」の「おもしろさ」とは何かを話し合う中で、おもしろさとは昔話を読む際に心が動いた部分にあることを共通認識しておく。昔話を自分で手に取って読むことができるよう教室に絵本を置いたり、昔話の言葉や表現を楽しめるように朝の時間や図書の時間に読み聞かせをする時間を設けたりする。

第Ⅱ次では、場面ごとにおもしろさを見付けていく。昔話を読んでいる際にどのようなあいづちをうちたくなかったか尋ね、昔話のおもしろさを見付けていく。「わあ」「びっくり」「えっ」「やさしい」などの「読みのあいづち」を増やしていく中で昔話を味わう力を養っていきたい。さらに児童から出たおもしろさはどこから見付けることができたのか「おもしろさを見付ける観点」に分類していく。「おもしろさを見付ける観点」は、「（人物が）したこと」「（人物の）性格」「（人物の）言ったこと」「できごと」「見た目・様子（絵）」「言葉・言い方」「物・景色」「つながり」の8つに分類し、学習の中で児童がおもしろさを見付けていく毎に観点を提示していくようになる。

学習の流れは、まず、本文から心が動いた部分に線を引き、どのような「読みのあいづち」を打ちたいか、読んだ感想を書き留める。次に、見付けた「読みのあいづち」や感想を「お散歩交流」する時間を設ける。「お散歩交流」とは、児童が自ら交流したい事柄や相手を選んで考えを伝え合う方法である。「お散歩交流」したことを基に、その場面のおもしろさと、なぜおもしろいと感じたのかの理由を書く。そして、見付けたおもしろさを全体交流する。全体交流の際は、児童が場面の様子を深く読む中で新しくおもしろさを見付けられるよう、動作化を取り入れたり、絵に注目したり、登場人物の気持ちを考えたりする時間も設ける。そして最後に、児童自身が自分の学びをメタ認知できるように、毎時間「振り返り」を書く。「『な』にができたか」「『し』つたこと」「『とも』だちの考えを聞いて」「『も』っと考えたいこと」という「なしひもも」の観点を示すことで、自分の学習を振り返る書きぶりを身に付けることができるようになる。

第Ⅲ次では、読み広げた作品の中から特に気に入った作品を選ぶ。かさこじぞうの学習の際に見付けて増やしていく「読みのあいづち」や「おもしろさを見付ける観点」を活用しながら「おもしろさはっけんカード」を書く。カードに書いたことを比べながら昔話のおもしろさを級友と交流し、新たな昔話のおもしろさを見付けられるようになる。

9 指導と評価の計画（全14時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1	○これまでに読んだ昔話について振り返る。 ○題名や扉絵から物語の内容を想像する。	・1年「むかしばなしをたのしもう」の挿絵を提示し、それぞれの昔話の好きなところについて発表できるようにする。	

		<p>○範読を聞き、初発の感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・題名や挿絵から、物語の場面設定や話の内容、地蔵様について想像できるようにする。 ・「好きなところ」「心に残ったところ」「なぜだろうと思ったところ」の3つの観点から選んで、初発の感想を書くようにする。 	
	2	<p>○初発の感想を交流し、学習計画を立てる。</p> <p>○本单元で付けたい力を確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・15の昔話を読み広げておもしろさを見付け、『おもしろさはっけんカード』を書いて交流することを知られる。 ・『むかし話のせかい、たんけんシート』について知らせ、読み広げる本を紹介し、読書意欲につなげる。 	
	3	<p>○場面分けをする。</p> <p>○言葉の意味などを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵や「時」「場所」「人物」などを手がかりに、5つの場面構成を確かめる。 ・挿絵を活用し、出来事の順序を確かめる。 ・児童の生活で馴染みの薄い語句や言い回しについて、資料を提示したり、言い換えて説明したりする。 	
二	4	○昔話特有の言葉や言い回しのおもしろさを見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・「むかしむかしあるところに～」や登場人物のセリフの語尾、「ごんぼ」「もちこ」など昔話特有の言葉や表現を見付け、それらの言葉の響きのおもしろさに気付くことができるようになる。 	<p>[知識・技能①] <u>全文のワークシート</u></p> <p>・昔話特有の言葉や表現に気付いているかの確認。</p>
	5	○第1場面を読んで「読みのあいづち」や感想を交流する中でおもしろさを見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文に線を引き、「読みのあいづち」や感想を書き留めてから交流し、第1場面のおもしろさを見付けていくことができるようになる。 ・じいさまとばあさまにとってお正月はどのようなものなのかを確認し、せっせと菅笠を編んでいる様子を動作化することでよいお正月を迎えたいという二人の気持ちを読み取ることができるようになる。 	<p>5～7時 <u>[思考・判断・表現①]</u> <u>ノート</u></p> <p>・じいさまの行動や場面の様子を具体的に想像しているかの確認。</p> <p>[思考・判断・表現②] <u>ノート</u></p> <p>・第1・2・3場面のおもしろさを見付け、それに対して感想と理由をもっているかの確認。</p>
	6	○第2場面を読んで「読みのあいづち」や感想を交流する中でおもしろさを見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・大賑わいの大年の市で懸命に笠を売るじいさまの様子を動作化することで、じいさまの思いを想像できるようになる。 ・ばあさまとよいお正月を迎えるために、大年の市で一生懸命笠を売ろうと意気込むじいさまの気持ちやそれ 	

7	○第3場面を読んで「読みの あいづち」や感想を交流す る中でおもしろさを見付け る。	<p>が売れずがっかりするじいさまの様 子に気付くことができるようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地蔵様が立っている場所や天候、地蔵 様の状態を確かめる。 ・じいさまの行動を動作化することを 通して、自分よりも地蔵様を思いや るじいさまの優しさに注目できるよ うにする。 	
8	○第4場面を読んで「読みの あいづち」や感想を交流す る中でおもしろさを見付け る。	<p>8・9時</p> <p>[思考・判断・表現①]</p> <p>ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じいさまとばあさま(地 蔵様(9時のみ))の行 動や場面の様子を具 体的に想像しているかの 確認。 	
9 本 時	○第5場面を読んで「読みの あいづち」や感想を交流す る中でおもしろさを見付け る。	<p>[思考・判断・表現②]</p> <p>ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4・5場面のおもしろ さを見付け、それに対 して感想と理由をもっ ているかの確認。 	
10	○「かさこじぞう」を読んで、 見付けたおもしろさについて、「おもしろさはっけんカ ード」を書く。	<p>[思考・判断・表現②]</p> <p>カード・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とっておきのおもしろ さを選び、感じたこと や理由を文章で表現 し、伝え合っているか の確認。 	
11	○「おもしろさはっけんカ ード」を交流する。	<p>[主体的に学習に取り組 む態度①]</p> <p>観察・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見付けたおもしろさと 選んだ理由を友だちと 交流しているかの確 認。 	

三	12	○これまでに読み広げた昔話をの中からとっておきの昔話を決め、「おもしろさはっけんカード」を書く。	・第1次から書きためてきた『むかし話のせかい、たんけんシート』を見返し、最も気に入った昔話の「題名」「面白かったところ」「理由」を書くようにする。	[思考・判断・表現②] カード ・最も気に入った昔話のおもしろいところと理由を文章で表現できているかの確認。
	13	○「おもしろさはっけんカード」を交流する。	・感想を交流する方法を実演しながら示す。 ・ペアやグループ、全体へと範囲を広げながら、全員がお話を紹介できるようする。 ・似ている昔話ごとに分類しながら交流し、新たなおもしろさを見付けることができるようする。	[主体的に学習に取り組む態度①] 観察・ノート ・昔話のおもしろさを進んで見付け、見付けたおもしろさと選んだ理由を友だちと交流しているかの確認。
	14	○単元の学習を振り返る。	・「どんな力が身に付いたか」に注目しながら、自分ができるようになったことや頑張ったことを確かめることができるようにする。	

[知識・技能①] 全文のワークシート

「おおむね満足できる」状況 (B) 評価

- ・「むかしむかしあるところに～」などの昔話特有の言葉や表現に気付いている。

「努力を要する」状況 (C) への手立て

- ・今まで学習した「名前を見てちょうどい」や「ニヤーゴ」にはない言葉と一緒に探したり、他の昔話と似たような表現がないかを探したりする。

[思考・判断・表現①] ノート、『おもしろさはっけんカード』

「おおむね満足できる」状況 (B) 評価

- ・じいさまとばあさまの行動や場面の様子を具体的に想像し、「人物がしたこと」「人物が言ったこと」からおもしろさを見付けることができている。

「努力を要する」状況 (C) への手立て

- ・動作化や挿絵の表情をヒントにもし自分だったらどう思うかを問いかけ、人物の気持ちを言語化できるようにする。

[思考・判断・表現②] ノート、『おもしろさはっけんカード』、観察

「おおむね満足できる」状況 (B) 評価

- ・自分の体験と結び付けたり、他の昔話と比べて読んだりする中で昔話のおもしろさに気付き、感じたことやその理由を文章で表現し、級友と伝え合っている。

「努力を要する」状況 (C) への手立て

- ・毎時間掲示していく「読みのあいづち」や「おもしろさを見付ける観点」を手掛かりに、似たおもしろさがないか一緒に探し、級友との交流の中でアドバイスをもらうよう促す。

[主体的に学習に取り組む態度①] 観察・ノート・『むかし話のせかい、たんけんシート』

「おおむね満足できる」状況 (B) 評価

- ・昔話のおもしろさを進んで見付け、見付けたおもしろさと選んだ理由を級友と交流している。
- ・進んで昔話を読み広げ、感じたことを書き留めている。

「努力を要する」状況 (C) への手立て

- ・昔話のおもしろさを見付ける際や、「おもしろさはっけんカード」を書く際に、適宜、ペアやグループで交流する機会を設けることで、級友の考えを参考にできるようにする。

10 本時の学習

(1) 本時の目標 (9/14)

地蔵様がじいさまとばあさまの家にやってきたときの様子を想像し、出来事や人物の言動からおもしろさを見付けることができる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1 本時までに見付けてきたおもしろさを振り返り、本時の学習内容を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> 掲示物やノートを見返し、様々な種類のおもしろさを見付けてきたことを想起できるようにする。 	
だい5場めんを読んで、おもしろいところを見つけよう。		
2 第5場面を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> どんなおもしろさがあるのか探しながら読むことを伝え、目的をもって読むことができるようとする。 	
3 おもしろさを感じたところに線を引き、感じたことを書き留める。	<ul style="list-style-type: none"> 「読みのあいづち」や感想を書き留め、交流の前に意見をもてるようとする。 自力でおもしろさを見付けられない児童には、印象に残ったところや好きなところに線を引くように促し、交流をする中でおもしろさを見付けることができればよいこととする。 	
4 おもしろさを感じたところとその理由を「お散歩交流」し、第5場面のおもしろさとその理由を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 「じぞうさま」「おじいさんとおばあさん」「ものとけしき・絵・その他」の3つの交流場所を設け、交流したい事柄や相手を選んで交流できるようとする。 これまでに学習したおもしろさの観点や交流したことをもとに第5場面のおもしろさについての感想をもつことができるようとする。 	<p>◆ [思考・判断・表現②] ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> 第5場面のおもしろさを見付け、それに対し感想と理由をもっているかの確認。 <p>[思考・判断・表現①] ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> じいさまとばあさま、地蔵様の行動や場面の様子を具体的に想像しているかの確認。
5 見付けたおもしろさを全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> じぞうさまの歌の歌詞に着目し、ばあさまを探している理由を話し合うことで、「つながり」のおもしろさに気付くことができるようとする。 「じよいやさ」「ずっさん」を動作化することを通して、地蔵様が力を合わせている様子や運んで来た物の量や重さに気付くことができるようになり、言葉のおもしろさに気付くことができるようとする。 物語の始めと終わりを比較し、「できごと(結末)」のおもしろさに気付くことができるようとする。 	

6 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none">・振り返りの観点を想起させ、本時の自分の学びについて、振り返ることができるようになる。・特に「お散歩交流」や「全体交流」での学びについて記述するよう助言する。	<p>◆ [主体的に学習に取り組む態度①]</p> <p><u>ノート</u></p> <ul style="list-style-type: none">・学んで分かったことやできたことを書いていく。
---------------	--	---

II 板書計画

